

地域の音風景を紹介しよう 自分たちが住んでいる地域の様々な音をお互いに紹介しよう

小学校 クラブ活動 総合的な学習の時間
三木市立教育センター 梶本佳照
<http://www.miki.ed.jp/center2/>

協力校 三木市立三樹小学校
キーワード インターネット 音 地域調べ 情報教育 総合的な学習の時間

1. はじめに

自分たちが住んでいる地域を紹介する場合、今までは写真画像やビデオ映像を使用することにより視覚に訴えて紹介することがほとんどであった。そこには、音という要素は映像に付属したものであるという認識があったのではないだろうか。もちろん模造紙上でまとめる場合は、音を表現することはできない。まためにコンピュータを使用するようになってきた最近でも文字と画像や映像が中心である。しかし、地域で聞くことができる音（風景の音）には、画像以上に地域の様子を伝えることができたり、創造を掻き立て心を和ませたりするものがあるのではないだろうかと考えた。そこで、地域の様々な音を地図上にまとめて Web ページとして公開し地域の様子を知ったり再認識をする機会として利用した。

2. 使用した機器等の説明

2.1 録音機器等

音の収録は、音質の良さと携帯に便利な点から MD レコーダを主に用いた。（写真 1）地域の写真は、デジタルカメラを用いて撮影した。デジタルカメラ及び MD レコーダーも児童が十分操作することができる。

2.2 Web ページに公開する音の形式

Web ページに公開する音の形式は、再生時のデータの軽さと汎用性から今回は RealPlayer 形式と MP3 形式の 2 つを用いた。

2.3 音の変換に利用したソフトウェア

MD レコーダからコンピュータへの音データの取り込み及び編集は、DijiOnSound Light（写真 2）を使用し、RealPlayer 形式への変換は、RealProducer（写真 3）を使用した。



写真 1

3. 具体的実践

この実践は、コンピュータクラブと指導にいられているボランティアの方を中心に行った。収集した音の場所の紹介ページは、6年生も作成に加わった。

3.1 収集する音を決めよう

(1) 児童が思い浮かべた音

クラブ員と収集する音を相談した。音は、三樹校区を中心に考えることにした。その結果、次の音が候補に上がった。

- 1) 三木祭り
- 2) 金物資料館
- 3) 神戸電鉄
- 4) 三木鉄道
- 5) 三樹小学校校庭
- 6) 中央公民館前信号

これらの音をクラブ員で分担し録音することにした。三樹校区は、大宮八幡宮の秋祭りが大変盛んで各町ごとに神輿を競い合い、児童も祭りが近づき太鼓の音が聞こえてくるとそわそわしてくる位である。その為、三樹校区の音となると真っ先に三木祭りが思い浮かぶようである。

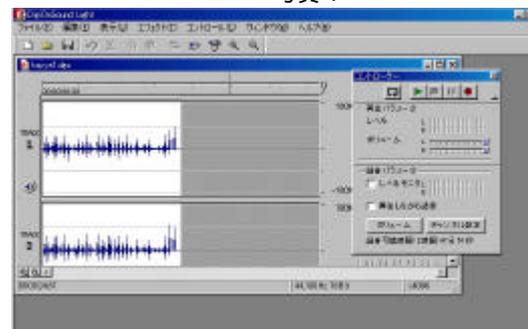


写真 2

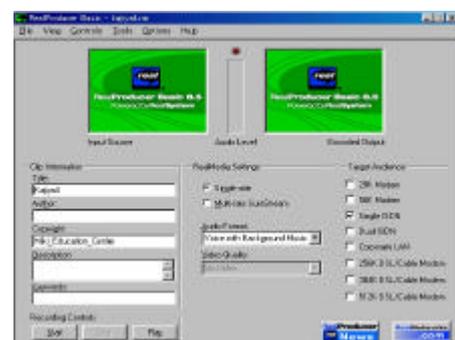


写真 3

(2) 地域の人が思い浮かべた音

次に、地域の人は、どのような音を思い浮かべるのかコンピュータクラブにボランティアに来ていただいている方々（約5名）に意見を聞いてみた。その結果次のような音が候補に上がった。

- 1) 学校に関する音（教室、休み時間、運動会等）
- 2) 企業に関する音（金物を作る音、金物を使う音等）
- 3) 地域にいる生物の音（鳥の鳴き声等）
- 4) 地域の人・先生・生徒の声（何かのテーマについての発言）
- 5) 鍛冶屋の音（大宮町内には数軒の昔ながらの鍛冶屋さんが残っています。）
- 6) 祭りの太鼓の音
- 7) 神戸電鉄が鉄橋をわたる音（この鉄橋は川の上でカーブしているめずらしい鉄橋です。）
- 8) 神戸電鉄の車内アナウンス
- 9) 美嚢川の流れる音
- 10) 鬼追いの太鼓とかげ声（1月20日 月輪寺と大宮八幡宮の共催）

これらの音も追加して収集することした。また、児童が時間的に収集しにくい音は、ボランティアの方が収集されることになった。ボランティアの方々も校区を紹介する音を考える過程で、住んでいる校区の様子を改めて思い浮かべておられた。また、音の収集と同時にその場所の写真もデジタルカメラで撮影しておき、その場所を紹介する Web ページの資料とした。

3.2 音の場所を紹介するページを作成しよう

各グループ（2名）ごとに音を決めてそれを紹介する Web ページを作成していった。児童の希望は、やはり三木祭りが多く、祭りが生活に密着していることを改めて感じた。

Web ページ作成ソフトは、児童向けの作成ソフトを使用したのを楽しみながら自分の感覚をそのまま表現したようなページを作成していた。また、パソコンクラブの活動時には、ボランティアの方（写真 4）も参加してもらい児童の補助をもらった。校区の音マップの部分（写真 5）は、音のリンク方法が児童にはわかりにくいので指導者の方で作成した。



写真 4

3.3 Web ページの感想を聞こう

作成した Web ページを見られた感想を次の方々に聞いてみた。

- (1) 校区外で三木市を余り知らない人
- (2) 三樹校区の保護者
- (3) ボランティアの人
- (4) 三樹小学校の児童

その結果、知らない場所は、「想像が膨らんで、そこに行ってみたいと思った。」

知っている場所は、「普段、意識して聞いていないのでこんな音だったんだなと改めて思った。」

全体を通して、「発想が面白くて面白い。」「鬼追いか、金物作りなどは三木特有なので特徴がでるし、文化の勉強にもなる。」というような印象に残ったという感想をいただいた。

児童も、音で紹介することに大変興味をもって取り組んでいた。



写真 5

4. 成果と課題

音で校区を紹介しようということで、実践を始めたが児童をはじめ大人も普段余り音というものを意識していなかったのが改めて地域の音に目が向いたようであった。現段階では、他の地域との交流というところまで実践が進んでいないが、他の地域と交流し、お互いに比較することによって自分たちの地域の特徴がより深くわかってくると思われる。音マップのページの感想を聞いていく中で、ぜひ自分の学校でも取り組みたいのでいっしょに交流しようという感想ももらった。音マップは、作成したら終わりなのではなく作成が始まりなのである。